

大野町・山辰組が開発、高速焼却装置

全国建設業協会 技術研究発表会



モヤッシーの模型を前に技術研究発表会最優秀賞を喜ぶ
山辰組の馬淵健社長(右)ら＝大野町稲畑、同社

「モヤッシー」最優秀

総合建設業山辰組(大野町稲畑)が開発した刈り草を高温焼却する高速焼却装置「モヤッシー」が、本年度の全国建設業協会の技術研究発表会で、創意工夫部門の最優秀賞を受賞した。最優秀賞受賞は初。焼却日数の短縮や煙の発生抑制、当日の発表内容が評価され、馬淵健社長は「このような装置や技術があることを多くの人に知ってもらい、一度使ってほしい」と語った。(湯浅裕作)

同社が根尾川堤防の除草作業に携わる中で、草が不完全燃焼で燃え切らず、大量の煙が発生し、焼却期間が長期化するなどの課題があった。モヤッシーは鉄製の装置に草を置き、焼却部にコンプレッサーで圧縮空気を直接吹き付けて完全燃焼させる仕組みで、焼却効率向上、煙の発生を大きく軽減。また、作業日数も短縮し、働き方改革にもつながっている。

発表会は、工事施工での工夫や改善、新技術の開発などの事例を各企業から募集。今回は創意工夫と高度技術の両部門に92件の応募

創意工夫部門 作業日数短縮、煙の抑制 評価

があり、このうち優秀事例として選定された11件(高度技術6、創意工夫5)について、各社の担当者が東京都の鉄鋼会館で発表した。大手の建設会社に参加する中で、同社は県内で唯一優秀事例に選ばれ、最優秀賞を受賞した。

これまでに優秀賞はあったが、馬淵社長は「本当にびっくりした。10年以上前から社員みんなが原型を考え、改良を重ねてきた。評価してもらい、とてもうれしかった」と振り返る。モヤッシーは刈り草の焼却を主な目的としているが、農林業や漁業の分野からも関心が寄せられているといい、「さまざまな効率化につながることを広めていきたい」と見据えた。